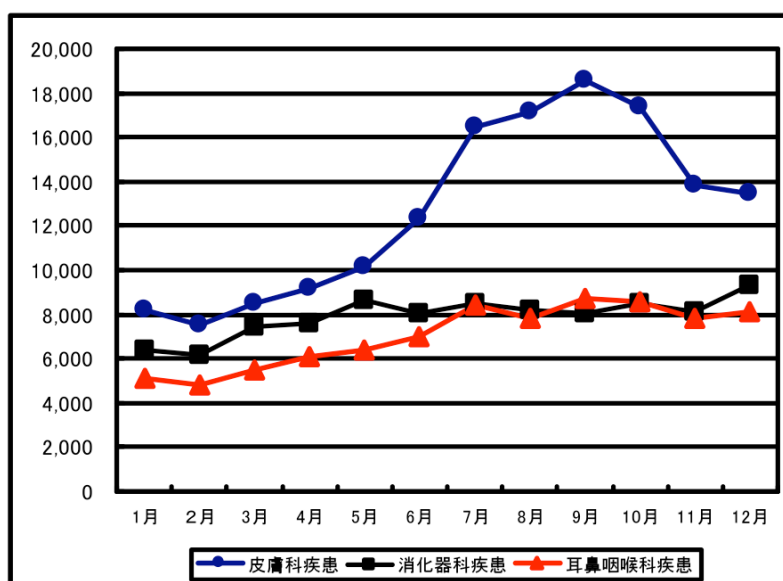


夏に増える犬の皮膚科疾患 9月が通院のピークに

アニコム損害保険株式会社(東京都新宿区:代表取締役社長 小森伸昭)では、グループ会社であるアニコム パフェ株式会社(代表取締役:島村麻子)と共同で、「どうぶつ健保」の給付金請求データを基に調査を行ったところ、犬の皮膚科疾患での通院数は6月から増加し、9月にピークを迎えることがわかりました。夏～初秋は、皮膚疾患が増える季節だといえます。



夏～初秋に皮膚疾患が多い原因としては、犬の皮膚や被毛が蒸れやすく、汚れや皮脂がたまりやすくなること、また、皮膚に寄生するノミやダニなどの活動が活発になることなどが原因と考えられます。

9月の皮膚科疾患請求件数

犬種	件数	割合	加入割合
ミニチュア・ダックスフンド	3,022	16.30%	17.00%
フレンチ・ブルドッグ	1,515	8.20%	2.70%
柴犬	1,301	7.00%	4.50%
シー・ズー	1,269	6.80%	2.50%
チワワ	1,153	6.20%	16.40%
その他	10,278	55.40%	56.90%
合計	18,538	100.00%	100.00%

集計方法:アニコム「どうぶつ健保」加入者より2007年1月～12月の給付金請求データを集計。

加入割合は、2008年1月時点の犬種別の割合

また、9月の通院数を犬種別に集計したところ、ミニチュア・ダックスフンド(3,022件、16.3%)、フレンチ・ブルドッグ(1,515件、8.2%)、柴犬(1,301件、7.0%)、シー・ズー(1,269件、6.8%)が上位を占める結果になりました。「どうぶつ健保」の犬種別加入割合を考慮すると、フレンチ・ブルドッグやシー・ズー、柴犬は、皮膚科疾患での通院が多い犬種であることがわかります。

皮膚科疾患は、皮膚と被毛を清潔に保つことで予防ができます。同時にコミュニケーションにもなるブラッシングをこまめに行い、愛犬が健康に過ごせるよう心がけましょう。